

4月の都内経済状況

項目	天気図	コメント
現在の景気動向		4月の都内の景気は、全体として緩やかに回復している。公共投資は前年を下回ったが、百貨店、スーパー、コンビニエンスストア、乗用車販売、住宅着工、輸出は前年を上回った。1～3月期の設備投資は前年を下回ったが、経常利益は前年を上回った（関東、大企業）。有効求人倍率は前月から横這い。企業倒産件数は3ヵ月連続で前年を上回った。
今後の見通し（3ヵ月）		都内の景気は、緩やかな回復が続くことが期待される。雇用・所得環境の改善や各種政策の効果が望まれるものの、物価高の長期化や節約志向の継続に加え、海外の景気や地政学リスクの高まり等が懸念される。
個人消費	百貨店売上高	百貨店売上高は、前年同月比7.2%増（既存店ベース）と4ヵ月連続で前年を上回った。ラグジュアリーブランドや時計・宝飾品など高額品が売上に牽引し、国内顧客売上也堅調に推移した。インバウンド需要は中国の訪日渡航自粛要請の影響が続くものの、円安水準が購買単価を押し上げ売上を下支えた。
	スーパー売上高	スーパーの売上高は、前年同月比1.9%増（既存店ベース）と21ヵ月連続で前年を上回った。買い上げ点数の減少傾向が続き、生活防衛意識の高まりや客単価の上昇効果の鈍化もみられるが、花見や入学祝いなどの季節需要やゴールデンウィーク前の行楽需要に加え、食品の価格上昇も売上高を下支えた。
	コンビニ売上（関東）	関東地区のコンビニエンスストアの売上高は、前年同月比1.3%増（全店ベース）と53ヵ月連続、東京都の売上高は前年同月比2.6%増（全店ベース）と56ヵ月連続で前年を上回った。
	乗用車販売台数	乗用車販売台数（軽を含む）は、前年同月比11.8%増と6ヵ月ぶりに前年を上回った。車種別では、普通車（同14.7%増）は7ヵ月ぶり、小型車（同15.1%増）は5ヵ月連続で前年を上回ったが、軽乗用車（同▲2.5%）は2ヵ月ぶりに前年を下回った。
住宅建設		4月の住宅着工戸数は、前年同月比26.7%増と4ヵ月ぶりに前年を上回った。利用関係別では、持家（同7.7%増）、分譲一戸建て（同26.8%増）はいずれも3ヵ月ぶり、分譲マンション（同107.2%増）は6ヵ月ぶり、貸家（同21.0%増）は4ヵ月ぶりに増加したが、給与住宅（同▲60.5%）は2ヵ月連続で減少した。
公共投資		公共工事請負金額は、前年同月比▲31.0%と5ヵ月ぶりに前年を下回った。発注者別では、国（同▲31.0%）、独立行政法人（同▲27.1%）、都県（同▲43.8%）、市区町村（同▲7.9%）は減少、地方公社は契約取消などの影響により請負金額がマイナスとなった。
貿易（東京税関管内）		東京税関管内の輸出額は、前年同月比17.3%増と29ヵ月連続で前年を上回った。主要地域別では、アジア向け（同16.5%増）は29ヵ月連続、アメリカ合衆国向け（同16.5%増）は5ヵ月ぶり、EU向け（同10.7%増）は9ヵ月連続、中国向け（同16.6%増）は2ヵ月連続で前年を上回った。
設備投資（関東、大企業）		財務省「法人企業統計調査」関東財務局管内分大企業集計によると、関東の法人大企業（資本金10億円以上、金融・保険を除く）の1～3月期の設備投資額は、全産業が前年同期比▲1.5%、製造業が同1.3%増、非製造業が同▲3.0%となった。
企業収益（関東、大企業）		同上調査によると、関東の法人大企業（同上）の1～3月期の経常利益は、全産業が前年同期比19.6%増、製造業が同36.4%増、非製造業が同3.9%増となった。
労働需給		有効求人倍率（季調値）は、1.74倍と前月から横這い。先行指標とされる新規求人数は前年同月比▲4.2%で9ヵ月連続で前年を下回った。南関東の完全失業率は2.7%と前月から横這い。
企業倒産		企業倒産件数は、前年同月比6.2%増と3ヵ月連続で前年を上回った。負債総額は同▲30.3%と2ヵ月連続で前年を下回った。業種別では、製造業（同▲54.5%）、卸売業（同▲16.0%）などが減少、情報通信業（同100.0%増）、サービス業（同20.7%増）などは増加した。
資金需要（銀行）		日本銀行「都道府県別預金・現金・貸出金」によると、4月の都内店舗の銀行による貸出残高は、前年同月比8.5%増と176ヵ月連続で前年を上回った。増加幅は前月から0.5ポイント増加、高い伸び率を維持した。

工業生産指数（季調値） （ ）は前年同月比%	工業在庫指数（季調値） （ ）は前年同月比%	消費者物価指数 （ ）は前年同月比%	（一ロメモ） 原材料価格上昇でコスト増加企業が約6割に 東京都産業労働局が公表した「事業活動におけるコストの変動」（令和8年5月調査）によると、生産や販売、サービス提供に要するコストが「増加」した企業は59.1%となり、前回調査（55.3%）から上昇した。コスト増加の最大要因は「原材料価格」（56.3%）で、前回調査（47.6%）を8.7ポイント上回った。
1月 104.1（-2.8）	1月 78.4（-25.4）	2月 111.4（1.5）	
2月 106.1（-7.0）	2月 76.1（-27.0）	3月 111.7（1.4）	
3月 104.7（0.1）	3月 90.6（-18.7）	4月 112.4（1.5）	

*工業生産指数・在庫指数・消費者物価指数は2020年平均=100。

*工業生産指数・在庫指数の前年同月比は、原数値による。

表は、都内経済の最新のデータを集めた当行独自のものです。なお、お天気マークは当部の判断です。

天気図表示の意味						
	好調	やや好調	横這い	弱含み	やや低調	低調